

# 美術博物館だより

News Letter From Tomakomai City Museum



## 目次 Contents

### 01 特集1 特別展 花ひらく近代洋画の世界

02 特集2 ネーピア展

02 活動紹介 平成27年度 市民との連携事業

02 クローズアップ① 郷土学習

クローズアップ② 苫小牧の歴史ウォーク

03/04 報告 平成27年度事業記録

04 クローズアップ③ サイエンスカフェ@苫小牧

05 コラム インスピレーション 内なる創造の源泉をめぐって

05 ミニコラム①/ミニコラム②

06 コラム こどもとおとなのミュージアム 地底旅行—地下資源をめぐる科学と美術の旅

06 勇武津資料館通信

07 館長コラム/平成28年度展示会情報/PR 次回特別展

07 収蔵資料紹介 展示室から/表紙の写真

特集 1  
特別展

## 花ひらく近代洋画の世界

■ 2015年9月19日～11月29日

日本の近代美術は明治以後、ヨーロッパの新しい美術運動を咀嚼し、独自に展開していきました。梅原龍三郎、安井曾太郎に代表される大正から昭和の日本の美術界をめぐる状況は、西洋絵画の懸命な習得から脱却し、芸術家の個性表出の重視へと意識が変化していきます。この頃の洋画界では、ヨーロッパの伝統的な手法である油彩を用いながらも、「日本的」とされる表現の構築が目指され、画家たちは西洋的なものと日本的なものとの狭間で葛藤しながら独自の表現を模索しました。平成27年度特別展「花ひらく近代洋画の世界」では、公益社団法人糖業協会のコレクションにより、そうした激動の時代を生き抜いた43名の日本人画家たちによる60点を展覧しました。

第一章「日本近代絵画の展開」では、藤島武二に代表される、明るい色調が特徴である「外光派」の作品を中心に、明治20年代後半に興った近代日本の洋画アカデミズムの様相とその展開について紹介しました。続いて第二章「花ひらく洋画」では、昭和初期の日本の美術動向を紹介すると共に、梅原龍三郎、安井曾太郎をはじめ、東郷青児、小磯良平など昭和の美術史に名を連ねる画家たちの揺籃期の貴重な作品の数々を展覧しました。こうした昭和の画家たちの精力的な活動は、その後多くの後進に影響を与えました。彼らは時に指導する立場として存在



オープニングセレモニー



感を放ち続け、その影響力は、中央画壇から離れた地方の画家たちにも波及していきます。終章「苦小牧と中央画壇の画家たち」では、苦小牧ゆかりの画家・遠藤ミマン、砂田友治、鹿毛正三と中央画壇の画家たちとの影響について探りました。

本展は、開館後初めて全国的に知られる日本の洋画家たちを紹介する絵画展となり、5,062名の方々にご来館いただき、改めて絵画に対する関心の高さを実感するものとなりました。また、展覧会に併せて、カルテットの音色華やかに開幕を迎えた「ロビーコンサート」、描くことを通して油彩画の魅力にふれる「はじめての油絵教室」など多様な関連イベントを開催し、いずれも多くの方々にお越しいただきました。中でも、東京文化財研究所から田中淳副所長をお招きし、日本

の近代洋画の展開に関するご講演いただいた際には、来場者の皆様の真剣に聞き入っておられた様子が大変印象深く、美術担当として、苦小牧の「洋画ファン」の今後の拡充に期待が高まる展覧会となりました。

福田 絵梨子（学芸員／美術）



はじめての油絵教室



ロビーコンサート

## 特集 2

### ネーピア展

#### ネーピア市姉妹都市締結 35周年記念交流展



2015年11月14日（土）から28日（土）まで、ニュージーランドネーピア市のMTGホークスベイにおいて、苫小牧市とネーピア市の姉妹都市締結35周年を記念し、当館のコレクション展が開催されました。展示は2013年2月にネーピア市の訪問団が来館した際に「互いの博物館や美術館の所蔵作品を交換した展示会を開催したい」という、当時のネーピア市長の提案を受け実施されました。

展示会は当市の訪問団が姉妹都市締結35周年記念式典出席のために、ネーピア市を訪れる日程に合わせて行われ、今後の両市の文化交流を促進するという意味合いを持つ展示となりました。会場となったMTGホークスベイは、ネーピア市の中心部に位置し、博物館、劇場、アートギャラリーの機能を併せ持つ複合施設です。「TREASURES OF TOMAKOMAI」と名づけられた展示会には、タマサイやアットウシ、イクパスイなどアイヌ資料29点のほか、郷土作家による苫小牧の市街地や自然を描いた版

画作品7点が展示され、北海道および苫小牧の歴史的背景と文化、現在の街の姿を美術的な視点からネーピア市民に紹介する試みとなりました。繊細で躍動感に溢れ、芸術性にも優れたアイヌ資料は、ニュージーランド先住民マオリの工芸品とも共通する部分が多く、彼らの地の人々にも共感をもって受け入れられました。

また、樽前山など苫小牧を代表する景観を描いた版画も、好評を博しました。初日にはニュージーランド駐在日本国大使も臨席され、両市長によるテープカット、展示解説の後、ティーパーティが催され、両市民との間での文化交流が一層進んだ事業となりました。今回の展示会はMTGホークスベイのスタッフをはじめ、多くの方々のご協力があって実現しました。今後もこうした展示会を継続的に実施し、両市の文化面での交流の絆を強めていくことができれば幸いです。

武田 正哉（学芸員（主査）／歴史）

#### 活動紹介

#### 平成27年度 市民との連携事業 ～苫小牧市美術博物館ボランティアについて～

当館では市民と協働する館を目指すために、2013年のリニューアルに合わせてボランティア制度を導入しました。現在では、30代から80代までの36名がボランティアに登録し、展示室の監視やワークショップの補助など、当館の事業を色々と支えてくださっています。

年に数回開かれる研修会では、主に企画展の解説会を実施していますが、今年度は新たに、野外彫刻の清掃研修を開催

しました。札幌芸術の森美術館の宮城加奈子学芸員を講師に迎え、まず野外彫刻の汚れや痛みの原因等についての講義を受けてから、当館に隣接する市民文化公園で清掃実習を行ないました。布やブラシを使って丁寧に磨き上げた彫刻は、どれも見違えるほどきれいになり、参加者は各々手ごたえを感じたようでした。

また、この研修は企画展「旭川市彫刻美術館所蔵 日本近現代彫刻名品選—ロダンから現代へ」の展示期間中だったことから、展示と清掃体験を通して「彫刻への見方が変わった」「まちなかにある彫刻に興味を湧いた」など、ボランティ

アの方々により彫刻に親しむ機会ともなりました。

発足してまだ間もないボランティアですが、地域と館をつなぐ架け橋として、これから大事な役割を担っていくことは間違いありません。

佐藤 麻莉（学芸員／歴史）



#### クローズアップ① 郷土学習

「先人の生活を知り、未来を展望する」という目的で当館では毎年、市内小学校の3・4年生を対象に「郷土学習」を行っています。同事業は、昭和61年に当市社会科研究部会の先生方と当館学芸員で作成した『小学校の社会科授業における、博物館を利用した郷土の学習』の一貫として始まりました。子どもたちに苫小牧の成り立ちや、先人の暮らしを学んでもらうため、常設展示を利用した「展示学習」と、石臼を使った「体験学習」を実施しています。今年も1,520名の小学生と先生たちが熱心に学んでいきました。

小玉 愛子（主任学芸員／植物）

#### クローズアップ② 苫小牧の歴史ウォーク ～市中心部編～

今年度の歴史見学会として「苫小牧の歴史ウォーク～市中心部編～」を実施しました。苫小牧駅を起点に王子製紙苫小牧工場の施設、一条通り、旧新川通り地区、旧苫小牧川周辺を歩き、街がどのように移り変わっていったのか、あるいは過去の記憶をとどめている場所や建物が現存するのかを20名の参加者とともに学びました。王子製紙苫小牧工場では普段は公開していない重厚な旧事務所と優美な王子倶楽部を見学し、市街地では百年を越える歴史を重ねた老舗商店や大正時代の建造物、古い通り、神社などを訪ねました。当日は学芸員の解説に加え、商店主から

も店にまつわるエピソードを伺いました。河川と国道の結節点から栄え、次第に東へ移転しながらまるで生き物のように移り変わる街の歴史を改めて知る機会となったと思います。実施から半年が経過し、中心部では当日見学した貴重な建物二棟が取り壊され、三店舗が廃業を余儀なくされました。街の歴史を後世に伝える必要を強く感じるとともに記録の重要性を感じる出来事となりました。

武田 正哉（学芸員（主査）／歴史）



# 報告

## 平成27年度 事業記録

### 展示事業

#### 特別展

##### ■花ひらく近代洋画の世界

会期：平成27年9月19日(土)～11月29日(日)

入場者：5,062名

特別協力：公益社団法人 糖業協会

後援：苫小牧商工会議所／苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星／北海道高等学校文化連盟

協力：苫小牧市美術館友の会／苫小牧市博物館友の会

##### ①オープニングセレモニー

日：9月19日(土)

参加者：70名

##### ②レコーンサート

演奏者：Juliano Quartet (ユリアーノ カルテット)

日：9月19日(土)

参加者：35名

##### ③ Music in Museum by 出光

主催：出光興産株式会社

日：10月3日(土)

参加者：1,000名

##### ④記念講演会「近代洋画について」

講師：田中淳氏

(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 副所長)

日：10月11日(日)

参加者：60名

##### ⑤はじめての油絵教室

講師：河野健氏 (画家)

日：10月24日(土)

参加者：21名

##### ⑥美術講座「昭和の美術と苫小牧」

日：11月7日(土)

参加者：13名

##### ⑦よみかせinみゅーじあむ

協力：苫小牧市立中央図書館

日：10月25日(日)、11月8日(日)

参加者：45名

##### ⑧ギャラリートーク (全3回)

参加者：101名

#### 企画展

##### ■旭川市彫刻美術館所蔵

##### 日本近現代彫刻名品選—ロダンから現代へ

会期：平成27年4月25日(土)～6月14日(日)

入場者：3,255名

協力：中原徳二郎記念旭川市彫刻美術館

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞 苫小牧支社／株式会社 苫小牧民報社／株式会社 三星

##### ①記念講演会「旭川 彫刻ものがたり」

講師：山脇雄一氏 (中原徳二郎記念旭川市彫刻美術館 学芸員)

日：4月25日(土)

参加者：42名

##### ②親子彫刻教室「木の枝×ブリキ」でアート！」

講師：藤井忠行氏 (彫刻家)

日：5月16日(土)

参加者：30名

##### ③スペシャルガイドツアー

講師：山脇雄一氏 / 細矢久人 (当館 学芸員)

日：6月14日(日)

参加者：54名

##### ④子どもギャラリートーク (全4回)

参加者：57名

##### ⑤ギャラリートーク (全5回)

参加者：56名

##### ⑥オープンアトリエ「らくがきはんこ」で絵を描こう！」

日：随時

##### ■こどもとおとなのミュージアム

##### 地底旅行—地下資源をめぐる科学と美術の旅

会期：平成27年7月4日(土)～9月6日(日)

入場者：4,271名

特別協力：石油資源開発株式会社 (JAPEX)

出品協力：北海道大学総合博物館 / 出光興産株式会社 北海道製油所 / 王子製紙株式会社 苫小牧工場 / Jファーム苫小牧株式会社 / 苫小牧ガス株式会社 / トヨタ自動車北海道株式会社 / 日本CCS調査株式会社

招待作家：吉田茂氏 / 下沢敏也氏 / 坂東宏哉氏

後援：苫小牧信用金庫 / 北海道新聞 苫小牧支社 / 株式会社 苫小牧民報社 / 株式会社 三星

協力：苫小牧市博物館友の会 / 苫小牧市美術館友の会 / 苫小牧CCS 促進協議会

##### ①アーティストトーク

ゲスト：吉田茂氏 / 下沢敏也氏

日：7月4日(土)

参加者：37名

##### ②記念講演会「苫小牧に眠る地下資源を探る」

講師：鈴木徳行氏 (北海道大学大学院理学研究院 教授)

北村孝行氏 (石油資源開発株式会社 北海道鉱業所技術部長)

日：7月11日(土)

参加者：56名

##### ③見学会「天然ガス利用施設見学会—地下資源のゆくえを追おう」

日：8月4日(火)

参加者：36名

##### ④夏休み！こどもウィーク

日：8月11日(火)～8月16日(日)

参加者：311名

##### ⑤ギャラリートーク (全5回)

参加者：71名

##### ■NITTAN ART FILE インスピレーション

会期：平成27年12月12日(土)～平成28年1月31日(日)

出品作家：坂東史樹氏 / 久野志乃氏 / 福森崇広氏 / 藤沢レオ氏

入場者：1,529名

後援：苫小牧信用金庫 / 北海道新聞 苫小牧支社 / 株式会社 苫小牧民報社 / 株式会社 三星 / 北海道新幹線 × nittan 地域戦略会議

##### ①藤沢レオ 公開制作

日：12月5日(土)～12月9日(水)

参加者：100名

##### ②アーティストトーク

講師：坂東史樹氏 / 久野志乃氏 / 福森崇広氏 / 藤沢レオ氏

高臣大介氏

日：12月12日(土)

参加者：46名

##### ③冬休み子どもオープンアトリエ

日：1月5日(火)～1月11日(月・祝)

参加者：101名

##### ④藤沢レオ (場の彫刻) × 清水フミヒト (舞踏) × 中坪淳彦 (音響)

「BorderLoss」

日：1月8日(金)

参加者数：41名

##### ⑤藤沢レオ ワークショップ「インスピレーションでインスタレーション」

日：1月16日(土)

参加者数：14名

##### ⑥美術講座「現代アートにみるイメージの源泉と創造性」

日：1月24日(日)

参加者数：9名

##### ⑦ギャラリートーク (全2回)

参加者：15名

##### ■ハスカップ—原野の恵みと描かれた風景—

会期：平成28年2月13日(土)～3月13日(日)

入場者：1,431名

特別協力：NPO 法人苫小牧環境コモンズ / 株式会社 三星 / 苫小牧郷土文化研究会

協力：北海道大学植物園 / 北大北方生物園フィールド科学センター 生物生産研究農場 星野研究室 / 北海道大学農学部森林科学科 / 北海道立図書館 / 北海道博物館 / 厚真町 / 神田正五氏 / 近藤俊一氏 / 有限会社 ハスカップサービス / ハスカップファーム山口農園 / 峠のふもと 紅果園 / 他、聞き取り・データ提供ご協力の皆様

後援：苫小牧信用金庫 / 北海道新聞 苫小牧支社 / 株式会社 苫小牧民報社

##### ①ミュージアムコンサート

演奏者：清野直子氏 (ピアノ演奏)

ゲスト：あつまるくん / とまチョップ

日：2月13日(土)

参加者：51名

##### ②市民講座「『よいとまけ』と三星」

主催：苫小牧郷土文化研究会

講師：白石幸男氏 (株式会社三星 元社長室長)

日：2月14日(土)

参加者：82名

##### ③談話会～ハスカップを語ろう～

演者：山口善紀氏 (ハスカップファーム山口農園) / 草苺健氏 (NPO 法人苫小牧環境コモンズ) / 星野洋一郎氏 (北海道大学北方生物園フィールド科学センター 准教授)

日：2月20日(土)

参加者：33名

##### ④ミュージアムクッキング「ハスカップジャムをつくらう」

日：2月27日(土)

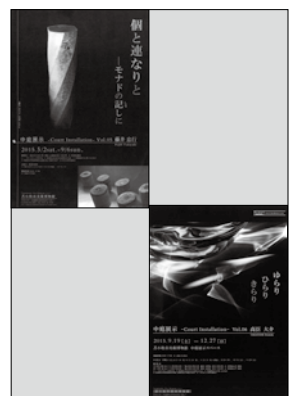
参加者：29名

##### ⑤ギャラリートーク (全11回)

参加者：114名

##### ■コレクション展タマサイ—つなりの美—

会期：平成28年2月13日(土)～3月13日(日)



入場者：1,431名  
記念講演会「苫小牧市内出土のガラス玉とシトキ・タマサイ」  
講師：越田賢一郎氏（札幌国際大学 教授）  
日：3月5日（出）  
参加者：40名

### 中庭展示

■vol.5 藤井忠行  
会期：平成27年5月2日（出）～9月6日（日）

■Vol.6 高臣大介  
会期：平成27年9月19日（出）～12月27日（日）

## 普及事業

### ■美術博物館大学講座

- 登録者数：146名
- ①入学式・「近現代の彫刻の動静と北海道の彫刻家たち」  
講師：山脇雄一氏  
（中原二郎記念旭川市彫刻美術館 学芸員）  
日：6月13日（出）
  - ②「高山と深海底で地球変化のプロセスをみる：地質学からのアプローチ」  
講師：前田仁一郎氏  
（北海道大学大学院理学研究院 特任准教授）  
日：7月18日（出）
  - ③「近世蝦夷地にやって来た異国船」  
講師：松本あづさ氏（藤女子大学 准教授）  
日：8月8日（出）
  - ④「空のエフェメラル～雲を探る～」  
講師：藤吉康志氏（北海道大学低温科学研究所 特任教授）  
日：9月26日（出）
  - ⑤「昭和初期の洋画」  
講師：福田絵梨子（当館 学芸員）  
日：10月10日（出）
  - ⑥「戦後70年苫小牧の戦後開拓」  
講師：山本融定氏（苫小牧郷土文化研究会 会長）  
日：11月28日（出）
  - ⑦「アイヌの鹿笛について～音楽の起源を探る～」  
講師：柘谷隆男氏（南幌みどり野幼稚園 園長）  
日：12月12日（出）
  - ⑧「近現代考古学のススメ～考古学でわかる新しい時代～」  
講師：菅野修広氏（登別市教育委員会 学芸員）  
日：1月30日（出）
  - ⑨卒業式・「ハスカップの多様性と育種について」  
講師：星野洋一郎氏（北海道大学北方生物園フィールド科学センター生物生産研究農場 准教授）  
日：2月20日（出）

### ■博物館クラブ

- 登録者数：19名
- ①開講式・植物のしくみ  
日：6月6日（出）

- ②地下資源について学ぼう  
日：8月22日（月・祝）
- ③紙をつくろう  
日：9月12日（出）
- ④まぼろしの線路をさがそう  
日：10月10日（出）
- ⑤きみも今日から縄文人  
日：11月14日（出）
- ⑥卒業式・松ぼっくりでツリーをつくろう  
日：12月12日（出）

### ■子ども広報部びとこま

共催：NPO法人 樽前artyプラス  
登録者数：16名

### ■ミュージアムラボ

- ①古文書解読入門  
日：11月21日（出）  
参加者：47名
- ②地球と大地の鉱物しらべ  
講師：新井田清信氏（アポイ岳地質研究所 所長）  
日：12月19日（出）  
参加者：12名

### ■無料開放日

- ①ゴーゴーミュージアム  
日：5月5日（月・祝）  
参加者：915名
- ②秋の美術博物館開放日  
日：11月3日（月・祝）  
参加者：960名
- ③美術博物館祭  
日：7月25日（出）、7月26日（日）  
参加者：558名

### ■見学会・観察会

- ①苫小牧の歴史ウォーク  
日：9月5日（出）  
参加者：22名
- ②芸術探訪（市立小樽美術館）  
日：12月2日（出）  
参加者：31名

### ■みんなで調べよう～タンポポ調査2015～

ゲスト：西田佐知子氏（名古屋大学博物館 准教授）  
座談会「繁殖干渉」ってなあに  
日：5月23日（出）  
参加者：33名

### ■ムラさんのナチュラルリスト講座

主催：苫小牧市博物館友の会  
①昆虫採集をしてみよう  
日：6月28日（出）  
参加者：25名

- ②植物の採取とデータ整理  
日：6月28日（出）  
参加者：12名

### ■郷土学習

期間：8月～11月  
対象：市内小学校24校3・4年生

### ■サイエンスカフェ@苫小牧

- ①苫小牧市テクノセンター見学会  
日：6月5日（出）  
参加者：20名
- ②目に見えない光でみる森のなか  
講師：中路達郎氏（北海道大学苫小牧研究林 准教授）  
日：6月6日（出）  
参加者：28名
- ③3Dビジョンセンサーから広がるミライ  
講師：青木広宙氏（千歳科学技術大学理工学部電子光工学科 准教授）  
日：7月25日（出）  
参加者：40名
- ④きれいなコケは好きですか？  
講師：大石善隆氏（北海道大学苫小牧研究林 博士研究員）  
日：3月26日（出）

### ■教員のための博物館の日

共催：国立科学博物館／公益財団法人 日本博物館協会  
後援：文部科学省  
日：8月5日（出）  
参加者：14名

### ■出前講座・講師派遣・アウトリーチ事業

日：随時  
実施：26件

- ※各事業の入場者・参加者数は平成28年3月13日現在のものとする。
- ※展示事業一覧は、企画展名、会期、入場者数、関連イベントを記載。
- ※明記の無い事業の主催は全て当館（苫小牧市、苫小牧市教育委員会）による。
- ※協力等は該当事業のみ記載。
- ※講師未記載は全て当館学芸員が担当。

## その他

### ■展示室貸出事業

- ①「吉川芳孝人形展」  
会期：3月25日（出）～31日（出）
- ②「道展苫小牧支部展50周年記念展」  
会期：4月1日（出）～7日（出）
- ③「苫小牧美術協会春季展」  
会期：4月8日（出）～14日（出）

## クローズアップ③ サイエンスカフェ@苫小牧



科学にもっと気軽に親しむ—その取り組みのひとつがサイエンスカフェです。当館では2014年度より開始し、これまでに7回実施しています。苫小牧や北海道を拠点に活躍している若手研究者をプレゼンターとして、それぞれの分野の最前線の研究について、気軽な雰囲気の中で中高生にもわかりやすく紹介いただいています。そして、ただ話を聞くだけでなく、研究対象の資料に触ったり、実験道具や機器を使ってみるなど、参加者も研究の世界を体験できる参加型の内容としています。6月に実施した5回目では、特殊なカメラで葉の中の色素や苦み成分の観測をしたり（プレゼンター：中路達郎准教授／北大）、6回目には光技術を学ぶほか、参加者全員で光アートの製作もやってみました（プレゼンター：青木広宙准教授／千歳科技大）。また、プレゼン

ターからはどうしてその分野に興味を持ったのか、そのきっかけや研究の裏話、参加者は素朴な疑問などを出し合い、全員で自由に楽しく語り合っています。

さらに今年度は、参加者と一緒に苫小牧市テクノセンターを訪問しました。そこでは、X線CTスキャンを使って外からは見ることでできない化石や果物の中身を見るほか、走査型電子顕微鏡による植物や昆虫の観察から、目ではとらえられないミクロの世界をのぞくなど、最先端の科学技術を学ぶ関連行事も行いました。サイエンスカフェを通じて、科学の世界は決して難しくなく、身近にある面白いものだと感じてもらえればと思います。

宮地 鼓（主任学芸員／地質・動物）



企画展「NITTAN ART FILE インスピレーション」  
(開催期間：2015年12月12日～2016年1月31日)  
「セクション1 久野志乃：新種の森の博物誌」

胆振日高（日胆）地方ゆかりのアートを紹介する企画展「NITTAN ART FILE インスピレーション」。本展企画の出発点には、“芸術の作り手であるアーティストは、いかにして人や物といった存在と対峙し、思索を深めながら個々のイメージを作品へと昇華させていくのか”という「創造性」のプロセスに対する問いかけがありました。そのため、出品作家は対象を単純に模倣するのではなく、独自の手法を用いながら新たな価値や世界観を提示するようなクリエイティブな作家へとおのずと絞られていき、最終的に様似町出身の画家・久野志乃、苫小牧市出身の映像作家・福森崇広、浦河町出身の美術家・坂東史樹、そして苫小牧市在住の彫刻家・藤沢レオという4人の作家に参加を依頼することが決定しました。創作の過程における天来の着想や靈感源を意味する「インスピレーション」をテーマに、「苫小牧」の都市景観や歴史、自然、事物などに着想を得た作品を出品していただきました。

本展の最終セクションでは、各作家の「内なる創造の源泉」を紹介すべく、構想段階のスケッチや作品の縮小模型、そして参考写真など、出品作品にまつわる制作資料を展示。それぞれの作家の作品制作の舞台裏を覗き見るかのような場を創出することを意図しました。結果的に「作品創造の現場に立ち会っているかのような感覚」「カタルシスを感じた」などの声を耳にすることとなり、現代アートを身近に感じていただけたようです。

本展の開催を機に、胆振日高ゆかりの作家たちにより作品化された「苫小牧」は、芸術表現ならではの想像力に基づく清新なイメージへと結実しながら、同時に、独自性の高い切り口による創意に満ちたものであり、見る者にさまざまな思考を促す契機となりました。また、関連イベントについても、公開制作をはじめワークショップやパフォーマンスなど、現代アートならではの充実した企画となり、地域における文化芸術の拠点として、その役割を果たす有意義な機会を得ることができました。

細矢 久人（主任学芸員／美術）

### ミニコラム①

#### 大正期における小保方運送店について

～支笏湖産ニホンザリガニの輸送事例から～

大正時代、支笏湖にはニホンザリガニ（以下、ザリガニ）が数多く生息していました。ザリガニは滋養強壯の食材として知られ、当時病弱だった大正天皇のために支笏湖産のものが度々調達されました。なかでも大正4（1915）年に行なわれた天皇の即位の礼で、“天皇の料理番”宮内省大膳寮厨司長を務めた秋山徳蔵がおもてなしの目玉料理

として「ザリガニのポタージュ（Bisque d' Ecrevisses）」を出したのは有名な話です。それらザリガニの運搬に携わったのが、苫小牧駅前にあった「小保方運送店」でした。

大正6（1917）年の事例によれば、小保方運送店は北海道水産試験場千歳支場と連携し、苫小牧で輸送の手はずを整えてから、鉄道で約36時間かけて東京上野まで運びました。運搬の際には専用箱を作成し、ザリガニが死なないように水苔と氷塊を敷き詰めて、中の温度が一定に保たれるよう細心の注意が払われたことが記録に残されています。

ます。

苦心して運ばれたザリガニは、秋山らの手によっておいしい料理に姿を変え、宮中で催す晩餐会に何度も華を添えました。

佐藤 麻莉（学芸員／歴史）



小保方運送店と従業員（大正11年）：写真左

### ミニコラム②

#### 企画展「ハスカップ ー原野の恵みと描かれた風景ー」

「ハスカップ」はスイカズラ科の灌木で、初夏に青紫色の小さな果実をつけます。この呼び名はアイヌ語の「ハシ・カッ（木の上にたくさんなるもの）」が語源で、植物名を「ケヨノミ」といいます。かつて苫小牧の東部・北部の湿原域にはハスカップの群生地が広がり、古くから周辺に住んでいた人々は、毎年7月になると酸味のある果実を採集して食べ、塩漬けにしました。戦前・

戦後の市内商店による製菓の開発や原材料の買取により、ハスカップの知名度は上昇していきますが、大規模な土地利用の変化により自生地は減少していきます。しかし多くの人々が移植・栽培に尽力し、減反政策の影響も受け、北海道中で栽培されるようになりました。苫小牧でも、移植や祭りなどが行なわれ、昭和61年には「市の木の花」として登録されました。

今年度、多くの人々と協力してハスカップの利用や過去の生育情報などについて聞き取りや現地調査を行ない、年度末に開催した企画展の中で、その途中

経過を紹介しました。今回の調査は今後も継続的に行なってきます。

小玉 愛子（主任学芸員／植物）



ハスカップの果実（2015年撮影）

子どもとおとなのミュージアム 地底旅行  
 — 地下資源をめぐる科学と美術の旅 —

わたしたちの足元には長い時間をかけて堆積した世界が広がり、そこには地球が歩んできた歴史が刻まれています。「子どもとおとなのミュージアム 地底旅行—地下資源をめぐる科学と美術の旅」は、苫小牧の地下5,000mに眠る地下資源について、科学と美術の視点からみつめた展覧会です。地球科学の視点から、1億年にわたる苫小牧の大地の生い立ちと生命の歴史、そして約3～5千万年前（新生代新第三紀始新世）の陸上植物を起源とする原油や天然ガスについて、化石などの地質資料と共にたどりましました。展示室では触れる原油標本を配置し、常温では固まっている原油標本を手にとって温めると、サラサラの液体になることを、子どもたちも楽しみながらその性質について学んでいました。さらに、石油資源開発株式会社（JAPEX）をはじめとした地元企業の協力を得て、掘削技術や市内におけるエネルギー資源の活用についても紹介しました。

そして、札幌を中心に活躍する吉田茂、下沢敏也、坂東宏哉の3名の現代作家による作品を展示し、美術の視点から、大地の絶え間ない変化やそこに流れる雄大な時間、地球上の生命の営みの大きなエネルギーについて考えました。

子どもたちにもわかりやすい展示を目指し、観覧者が本好きの少年オリヴァンと好奇心旺盛な少女ガーネット、そして博士とその助手の犬トマリと一緒に地底を旅するというストーリー展開としました。その結果、たくさん子どもたちが鑑賞ガイドを手に、クイズを解いたり、感想を書き留めたり、思い思いに楽しんでいたことがとても印象的でした。「地下資源」や「地球」をキーワードに、科学、美術そして産業と多角的にみつめたこの展覧会は、複合施設である当館の特色を最大限に出すことができたのではないかと思います。そして、わたしたちが立っている大地の地下から、秘められた地球のおいとおい過去を探り、現在の姿を深く理解し、そして未来の姿について考える、そのようなきっかけになったのではないのでしょうか。

宮地 鼓（主任学芸員／地質・動物）



勇武津資料館通信

ふるさと歴史講座では「八王子千人同心と家紋」（11月）、「古文書・古地図に見る勇武津」（1月）、「古い絵はがきで巡る苫小牧」（2月）の3回が開催されました。

「八王子千人同心と家紋」では、「蝦夷地開拓移住隊士の墓」に見られる家紋から千人同心の家系について考えました。

「古文書・古地図に見る勇武津」は元館長の佐藤一夫氏に依頼した講座です。古地図・歴史年表などのスライドを使って、寛政12年（1800）前後の会所の変遷、同時期に東蝦夷地の調査にあたった「松平信濃守忠明」のことなど、興味深い歴史が紹介されました。参加者は近隣の市町村に及び、定員オーバーとなりました。

「古い絵はがきで巡る苫小牧」は、美術博物館の武田学芸員が絵はがきのはじまりや、明治末から大正にかけての絵はがきに見られる苫小牧の風景・記念行事・観光、まちの移り変わりや当時の世相などを紹介しました。美術博物館と市立中央図書館が所蔵する400枚以上の絵はがきを整理するなかでの報告でした。

ふるさと探訪では、「勇払の植物観察会」（7月）、「勇払の歴史散歩」（9月）、「勇

払海岸の漂着物調査」（10月）を実施しました。

「勇払の植物観察会」では、初記録の可能性のある植物が見つかりました。「勇払の歴史散歩」では「勇払恵比須神社及び指定文化財の21点の奉納品」・「勇武津不動と妙見堂の扁額」・「勇払会所跡」の見学を行いました。漂着物と植物調査は定点観察、歴史散歩は文化財の大切さを知るという意味で、今後も重要な事業だと思えます。

生活体験教室は、8回開催しました。こどもの日の「とんぼくんであそぼう」から「勾玉をつくろう」などの定番行事に加えて、シカの角の先端を使ったペンダント作りも人気がありました。

「石臼を引いてそばがきをつくろう」と「くん製づくりに挑戦」の食べ物関連は、いずれも勇武津資料館友の会の応援もあり、後者は定員オーバーで、うれしいことに新たに3名の入会者もありました。また、「機織体験教室」（3回）の「初めての裂織り」でも定員を超える参加があり、勇払地区に人が集まる方向性が見えてくるような気がした一年でした。

二階堂 啓也（事務員）



上：古文書・古地図に見る勇武津  
 中：シカの角でペンダントをつくろう  
 下：初めての裂織り

## 館長コラム

### 一年を振り返って

早いもので、市民待望の美術博物館として平成25年7月にリニューアルオープンして3年目を迎えようとしています。

平成27年度の展示事業は、特別展「花ひらく近代洋画の世界」をはじめ、苦小牧の地下資源や郷土のシンボル・ハスカッ

プ、また胆振・日高出身の現代作家に注目した地域・郷土色豊かな展覧会のほか、他美術館と連携した彫刻展や収蔵品展を開催し、大きな成果を収めました。

平成28年度は、従来の事業に加えて、当館をより身近に感じていただくために、苦小牧の自然・歴史・文化芸術への関心が芽生える多彩なプログラムで構成する「美術博物館祭」の開催を新たに予

定しています。

これからも、「学び喜びがあふれ文化薫るまち」を担い、地域に根ざし、楽しみながら学んでいただける施設として職員一同努力して参りたいと思いますので、ご支援のほど宜しくお願いいたします。

荒川 忠宏（館長／地質）

## 平成28年度 展示会情報

### 特別展

## Art and Air

一空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語

7月9日（土）～9月4日（日）



青秀祐《Operation "A"》2012年、作家蔵、  
（※参考作品：青森県立美術館でのインスタレーション風景）

### 企画展

#### ■生誕100年記念 砂田友治展

4月29日（金・祝）～6月26日（日）

#### ■イカカラアイヌ刺繍の世界

9月17日（土）～11月3日（木・祝）

#### ■スポーツ都市宣言50周年記念企画展

#### 門脇松次郎と苦小牧のスポーツ

11月12日（土）～平成29年1月15日（日）

### 収蔵品展

#### ■樽前山のある風景

前期：11月12日（土）～平成29年1月15日（日）

後期：1月21日（土）～3月12日（日）

#### ■樽前山をめぐる自然史

平成29年1月28日（土）～3月12日（日）

### 中庭展示

#### ■vol.7 岡本光博 4月23日（土）～9月4日（日）

#### ■vol.8 上ノ大作 9月17日（土）～12月25日（日）

※展覧会の名称及び内容、時期等は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

Q どのような展覧会ですか？

——「空」と「飛行機」をテーマとする展覧会です。20世紀に登場した飛行機が発明されるまでの歴史や、それが人間にもたらした「俯瞰」という新たな視点、そして、「空」や「飛行機」をモチーフとする作品や資料をとおして見えてくる人々の意識や時代精神を探ります。

Q どんなものが展示されますか？

——「空」や「飛行機」をモチーフとする絵画や写真、立体作品をはじめ、飛行機の模型や実際に使われていた木製のプロペラ等を展示します。

細矢 久人（主任学芸員／美術）

PR  
次回  
特別展

### 収蔵資料紹介

#### 展示室から「アオサギ」

アオサギ (*Ardea cinerea*) はコウノトリ目サギ科の鳥類で、苦小牧では夏鳥として観察されます。後頭部に黒く長い冠羽（頭部にある、長く飛び出た羽）を持つのが特徴で、河川や湖沼の魚類・水生生物を食し、河川や湿原の樹木の上に細い枝で巣を作り、青みがかった色の殻を持つ卵を産みます。

かつて、苦小牧市内東部の明野地区には「桜蘭の森」と呼ばれる、大きなアオサギのコロニー（営巣地）がありました。住宅地や工場



用地の拡大などで、明野地区の集団営巣地は消滅してしまいましたが、現在も市内あちこちの河川敷や沼の周囲を悠々と飛来し、魚を捕らえる姿が目撃されています。

街の環境が変わっても、しなやかに生き延びている、彼らの様子を現在も知ることができます。

小玉 愛子（主任学芸員／植物）



#### 表紙の写真 苦小牧柏原5遺跡出土 注口土器 当館蔵

この土器は縄文時代晩期のものです。資料の高さは14cm、最大幅は32cmと比較的大きく、急須に似た形状となっています。胴部には縄文のほかに、「S」字状や三叉状の文様が施され、表面には黒漆が塗られています。この土器は、東北地方を中心に分布した「大洞式」に属していることから、当時、北海道と東北との間に交流があったことが伺えます。

佐藤 里穂（学芸員／考古）

苦小牧市  
美術博物館だより

平成28年3月31日発行・第3号

編集・発行：苦小牧市美術博物館 〒053-0011 苦小牧市末広町3丁目9-7

TEL 0144-35-2550 FAX 0144-34-0408

URL <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>